

この度、東海村で「原子力防災シンポジウム」を開催することになりました。主催は「東海第二原発の再稼働止める会」です。止める会の共同代表は村上さんと元瓜連町町長先崎さんで事務局は披田信一郎さんです。双葉町元町長 井戸川克隆氏においでいただいて事故時に起きたこと「私達が知らされていない事実」をお聞きし、原発避難の実態を村民県民に知ってもらうことが狙いです。

そしてチラシ配布によって、山田村長の再稼働容認の雑誌発言を知ってもらうことも目的の一つです。

再稼働に向けて着々と工事が進み、大きな木が次々と伐採されている東海村。

こんな時期に山田村長が再稼働容認の発言を公表した事は、それなりの考えと覚悟があったはずです。

一昨日4人の村会議員さんが村長と面談し、昨日その記事が東京新聞に掲載されました。行き過ぎた表現に謝罪すると言うのが大見出しです。そして「最終的には村民の総意」と書かれており、村民の意向を最優先にするとも言っています。

しかし、はたして「村民の総意」は原発廃止に向かうのでしょうか？

私はかなり厳しいと見ています。

東海村は土地が安いので、人口が増加しています。つまり村民は危機感を持っていないように見えるのです。

ドイツ人ジャーナリストのアンドレアスさんは先般開催した講演会の時、交流会で、

「ドイツでも立地自治体ではそれなりにお金が落ちるから、推進派が優位である。ただその周りの反対の声が強烈的なので、脱原発を決めることができた」と言っていました。

つまり、茨城県民の多くや、首都圏の皆さんが、一緒になって

もっともっと原発廃止の声を上げていかなければ、今の流れは変わらないということです。

これは、言うほどには簡単なことではありません。

今度の山田村長の記事でどこが1番問題なのか?と言えば、

「再稼働は問題なく、原発は安全である」「福島では何の問題も起きていない。」と2人が述べていることだと考えます。安全の保証確保に疑問を持たず、被ばくは問題無いと言い切っているところでは。

この問題を解決するためにも、「原子力防災シンポジウム」を開催し、論破しないといけないと考えています。

以下にテキストを貼りました。

井戸川さんの裏面の文言部分をみなさんにぜひ読んでもらいたいです。

原子力防災シンポジウム

12月14日(土) 13:30~16:00

石神コミュニティセンター 2F 東海村石神内宿1609

原発避難は故郷へ戻ることの出来ない地獄への片道切符です。

私は痛恨の失敗をしました。事故は起きないとの言葉に油断をして事故を防げなかったことは、悔み切れない失敗です。これは大変なことです。首長には法律によって、住民の「生命、身体並びに財産」を災害から守る責任があります。福島事故を経た今、原発事故が起きることを知らなかったとは言えないので、村民を避難させた瞬間から、「首長は事故を防がなかった」という責任追及がなされます。核産業の現場労働者は過酷に切り捨てられますが、住民の被ばく被害も証拠が無いと言われて見捨てられます。

加害者から責任を被せられた私の失敗から学んで下さい。

皆様には、私達のような辛い思いをしてほしくないのです。

双葉町元町長 井戸川 克隆氏

東海第2原発再稼働に原子力規制委員会の許可があり、安全対策工事が始まったために大樹が次々切られ、駐車場や道路の工事が進んでいます。東電が日本原電に約2200億円の資金支援を決め、再稼働への具体性が高まっています。

東海村長山田修氏は「再稼働は容認」との見解を、新潟県刈羽村村長品田氏との対談のなかで明らかにしました。過酷事故を想定した、広域避難計画を策定中の東海村です。

紛争地難民キャンプ以下と言われる日本の避難所待遇は、改善の方向が中々見出せず、人権問題として注視されています。

3.11で十分な遠方まで住民を避難させた、ただ一人の首長、双葉町元町長 井戸川克隆氏から、「事故時に起きたこと」「私達が知らされていない事実」をお聞きし、原発避難の実態と、私たちがなすべきことを学びあいたいと思います。

プログラム

1.井戸川克隆さん講演

2.みんなパネルトーク 広域避難計画について

篠山市防災ハンドブックから学ぶ

主催：東海第2原発の再稼働を止める会

<https://tomerukai.jimdo.com>

問合せ 事務局 披田090-3232-0214

裏面

JCO臨界事故と福島原発事故の2つを経験した東海前村長 村上氏は言っている。

「日本には原発をコントロールする能力がない。

思想もない。原発は地域振興にならないことも分かった。安易に入ってくる金は、町や人をだめにしてしまう」と。

山田村長が、再稼働容認発言を公表するとは驚きだ。反対意見も丁寧に聞いて、十分に考えて、その上で判断して欲しい。

東海第2原発の再稼働を止める会 共同代表

脱原発をめざす首長会議メンバー 元瓜連町長 先崎千尋氏

福島のある家族は、当時、ガソリンもない中、やっとの思いで土浦のホテルに辿り着いた時、「着ているものを全て脱いで」と汚染物として扱われて落胆し、ふたたび福島に戻りました。その後つくば市に避難して8年半。今、再度住まいを追われています。それは原発事故を無かったことにして、補償を値切りたい国の姿勢から導かれた結論としか考えられません。 福島応援プロジェクト茨城 小張佐恵子

井戸川氏が歴史に残すべきと考える

元双葉町災害対策本部長としての不作為

- 1.東電の嘘を見抜けなかったこと。
 - 2.発電所の運転を止めなかったこと。
 - 3.東電と事故後の扱いについて契約していなかったこと。
 - 4.事故は起こさないと言う契約を交わさなかったこと。
 - 5.事故が起きた場合の避難場所を決めておかなかったこと。
 - 6.損害賠償は放射性物質が片付くまで続くと言う契約をしなかったこと。
 - 7.放出された放射性物質は東電が全部片付ける契約をしなかったこと。
 - 8.避難したら東電が生活の一切の面倒を見る契約をしなかったこと。
 - 9.発電所から放射性物質が出たら、町民全部を放射性物質が届かない場所に、東電が移動させることを契約しなかったこと。
 - 10.東電が重要情報を隠して事故が発生させたら街の全部を移転させる契約をさせなかったこと。
 - 11.発電所が震源で町民が苦しむことがないようにしますと言う契約をしなかったこと。
- 原発を止めることが最善の避難対策です！

篠山市の防災ハンドブック

避難装備。マスクは必携です。雨カッパ、帽子、手袋、メガネ、ビニール袋、水と食料、傘。

重要書類、安定ヨウ素剤、線量計も有った方が良いでしょう。

「思いっきり遠くまで、いち早くとつと逃げるのが基本」

500 μ Sv/h

1週間100mSvが

避難開始の基準です。事故のあと、ハードルは高くなりました。

被ばくなしの避難はできません。

被災地視察の装備です。
避難時も同様ですが冬以外は厳しいです。
複数用意。廃棄の為のビニール袋も必要です。

被ばく被害
配慮

再稼働が

東海村の東京新聞購読者が100人しかいませんし、その他の新聞は一切取り上げていないのでほとんどの東海村民がこの問題を知りません。

今回の企画は参加者を集める事のみならず、告知のチラシを折込や駅頭配布などで波状的に山田村長の件を周知させる機会にしたいとおもいます。
けれどもハッキリ敵対する様な文言を自分たちから出すわけにはいかないとの、みなさんの立場です。

先日開催したアンドレアスシングラーさんの講演会で、受け皿になってくださった団体が「原子力防災を考える会@茨城」だったので、「いつか井戸川克隆さんと呼んで講演会をするのも良いのではないですか